町長室からこんにちは

No.45

一宮町長
馬淵 昌也

昨年度、秘書広報課で、一宮町のバックボードを作成しました。バックボードとは、取材などのとき、背後に置く屏風のようなものです。広報の表紙を飾る写真にもよく登場しますので、皆様もご覧になられたことがあろうかと思います。

一宮町東側の航空写真の上に、加納久宜公の書「仁以山悦　水為智歓」をうつしたものです。内外の皆様にご好評を頂いておりますが、この加納公の書の意味についてご質問を頂くことがよくあります。ここでご紹介をいたします。

この言葉は、「仁は山を以て（もって）悦び（よろこび）、水は智の為（ため）に歓ばる（よろこばる）」と読みます。意味は、「仁（思いやり）の気持ちを持った人は、山を見て嬉しい気持ちになり、川（水）は、智恵のある人に喜ばれる」という意味です。

中国・西晋時代の王済（おうさい）という人の詩の一節で、三国時代を終わらせ晋を建国した司馬炎のために作られたものです。詩の中の、「仁を持った人」「智恵のある人」とは司馬炎のことでしょう。

そして、さらにこの句は『論語』の一節を踏まえて作られました。「子曰く、知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ。知者は動き、仁者は静かなり。知者は楽しく、仁者は寿（いのちなが）し」という一節です。「知恵ある人は、動きのある川の流れを好んで楽しく過ごし、仁徳ある人は、どっしりした山を楽しんで長生きだ」という意味です。

加納公は、詩句のあとに、「七十二翁加納久宜」と書されているので、大正六年に記されたものだろうと思います。どなたかのお祝いで贈られたものかもしれませんが、そこははっきりしません。現在は、現物ではなく、木に彫られた額が、副町長室に掲げてあります。仁知を兼ね備えた加納公のご人徳をしのぶことができる書蹟です。

一宮町は、海も川も、山もある素晴らしい土地です。その、一宮の土地柄にふさわしい言葉であり、しかも郷土の偉大な先達・加納公によって記されたものですので、一宮町を象徴するバックボードに掲げさせて頂きました。今後、バックボードをご覧になる際は、そういう意味合いも味わっていただければと思います。